

## 平成25年度 第1回 滋賀県環境こだわり農業審議会資料

日 時：平成25年7月31日（水）  
14:00～16:00

場 所：県庁北新館5-A会議室

- 資料1** P1～  
環境こだわり農業推進基本計画の進行管理について
- 資料2** P17～  
平成24年度第2回審議会におけるご意見・ご提言の整理  
—環境こだわり農業の今後の推進に向けて—
- 資料3** P19～  
環境こだわり農業のPR対策について
- 資料4** P21～  
水稻新品種「みずかがみ」について
- 資料5** P23～  
滋賀県環境こだわり農業実施協定等運営要綱の一部改正  
について

### 【別冊】

- ① 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画
- ② 平成25年度環境保全型農業直接支払交付金の概要
- ③ 食べることで、びわ湖を守る。eat eco

環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況(目標年次平成27年)

資料1

◇総合的指標

項 目	単位	策定時現状	実績					目標	備考
		H21	H23	H24	H25	H26	H27		
水稲における環境こだわり農産物栽培面積の割合	%	33	37	38			50	(環境こだわり農産物生産計画認定面積)/ (農林水産統計の 主食用作付面積)	
環境こだわり農産物の栽培面積	ha	13,149	14,455	13,557			18,000	環境こだわり農産物 生産計画認定面積	
内訳									
水稲	ha	10,961	12,016	12,135			15,850		
麦	ha	26	25	20			1,300		
大豆	ha	1,533	1,677	725					
野菜	ha	290	307	160			450		
果樹	ha	103	106	99			110		
茶	ha	20	15	15			40		
その他	ha	215	310	402			250		

◇基本方針1

環境こだわり農業のスタンダード化・定着化に向け、環境に配慮した技術の実践拡大を一層推進します。

項目	単位	策定時現状	実績				目標	備考
		H21	H23	H24	H25	H26	H27	
化学合成農薬使用量の削減割合 (平成12年度対比)	%	32.5	41.3	41.8			40	農薬要覧による県内への出荷量(前後を含む3年間の平均)
園芸作物における環境こだわり農業技術の取組面積	ha	125	136	141			190	農業技術振興センター調査
内訳 野菜の少量土壌培地耕	ha	23	27	27			25	
果樹の被覆栽培	ha	95	95	94			100	
茶の全面施肥	ha	5	11	17			60	
花の短茎小菊等	ha	2	3	3			5	
水田ハローによる浅水代かきの実施率	%	23.4	28.5	27.1			30%	環境こだわり農業実践状況調査
主要河川の透視度(代かき・田植え時期)	cm	42.8	37.2	39.4			48	各農業農村振興事務所調査(78地点)
耕畜連携による家畜ふん堆肥の利用率	%	64	65	67			80	畜産課畜産経営環境保全実態調査
「魚のゆりかご水田」など豊かな生きものを育む水田取組面積	ha	111	123	171			250	農村振興課調査
内訳 魚のゆりかご水田	ha	111	117	105			150	
豊かな生きものを育む水田	ha	0	6	66			100	

◇基本方針2 滋賀の地域ブランド「環境こだわり農産物」の生産・流通を推進します。

項目	単位	策定時現状	実績				目標	備考
		H21	H23	H24	H25	H26	H27	
近江米の推進主要品種 (コシヒカリ・秋の詩)に おける環境こだわり 農産物の栽培面積	ha	6,310	7,065	6,863			10,000	環境こだわり農産物 生産計画認定面積
内訳 コシヒカリ	ha	5,190	5,838	5,803			7,500	
秋の詩	ha	1,120	1,227	1,060			2,500	
環境こだわり農産物認証 マークを表示して出荷する 生産組織数	組織	87	101	117			120	食のブランド推進課 調査
GAPに取り組む 生産組織数	組織	51	83	98			150	

◇基本方針3 環境こだわり農産物の積極利用に向け、県民が一体となった取組を推進します。

項目	単位	策定時現状	実績			目標	備考
		H21	H23	H24		H27	
「おいしがうれしが」キャン ペーンの登録店舗数	店	596	866	1,033		800	食のブランド推進課 まとめ
環境こだわり農産物を 継続して利用する 消費者の割合(注)	%	28	29	-		36	県政世論調査等

(注)「環境こだわり農産物を継続して利用する消費者の割合」の現状値については、平成22年度の値。



平成25年度第1回滋賀県環境こだわり農業審議会

## 環境こだわり農業推進基本計画の 進行管理について



滋賀県農政水産部食のブランド推進課

### ■環境こだわり農業推進基本計画について

#### ・計画策定の目的

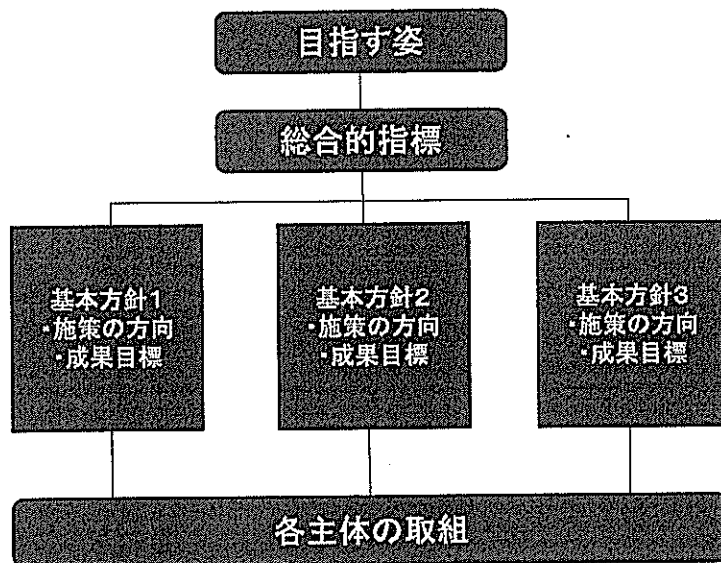
様々な立場の県民(農業者や農業団体、農産物販売業者、消費者など)が連携し、環境こだわり農業の実践や、環境こだわり農産物の流通にかかる取組を発展させることで、琵琶湖等の環境と共生する農業が本県に根付くことを目指し、推進の考え方や施策の方向性を定めるものです。

#### ・計画期間

平成23年度～平成27年度(5年間)



■環境こだわり農業推進基本計画について



目指す姿

環境こだわり農業の技術が農業生産の大半の場面で取り入れられ、琵琶湖等の環境に配慮した農業が持続的に営まれます。そして、県民がこのような取組を評価し、琵琶湖等の環境に配慮して生産された農産物を積極的に利用します。

総合的指標とその目標

項目	現状 (21年度)	目標 (22年度)
水稲における環境こだわり農産物栽培面積の割合	33%	50%
環境こだわり農産物の栽培面積 (対象農作物全体の合計)	13,149ha	18,000ha

・基本方針1

環境こだわり農業のスタンダード化・定着化に向け、環境に配慮した技術の実践拡大を一層推進します。

・成果目標

項目	現状 (21年度)	目標 (27年度)
化学合成農薬使用量の削減割合(平成12年度対比)	32.5%	40%
園芸作物における環境こだわり農業技術の取組面積	125ha	190ha
水田ハローによる浅水代かきの実施率	23.4%	30%
主要河川透視度(代かき・田植え時期)	42.8cm	48cm
耕畜連携による家畜ふん堆肥の利用率	64%	80% (30,000t拡大)
「魚のゆりかご水田」など豊かな生きものを育む水田取組面積	111ha	250ha

・基本方針2

滋賀の地域ブランド「環境こだわり農産物」の生産・流通を推進します。

・成果目標

項目	現状 (21年度)	目標 (27年度)
近江米の推進主要品種(コシヒカリ・秋の詩)における環境こだわり農産物の栽培面積	6,310ha	10,000ha
環境こだわり農産物認証マークを表示して出荷する生産組織数	87組織	120組織
GAPIに取り組む生産組織数	51組織	150組織



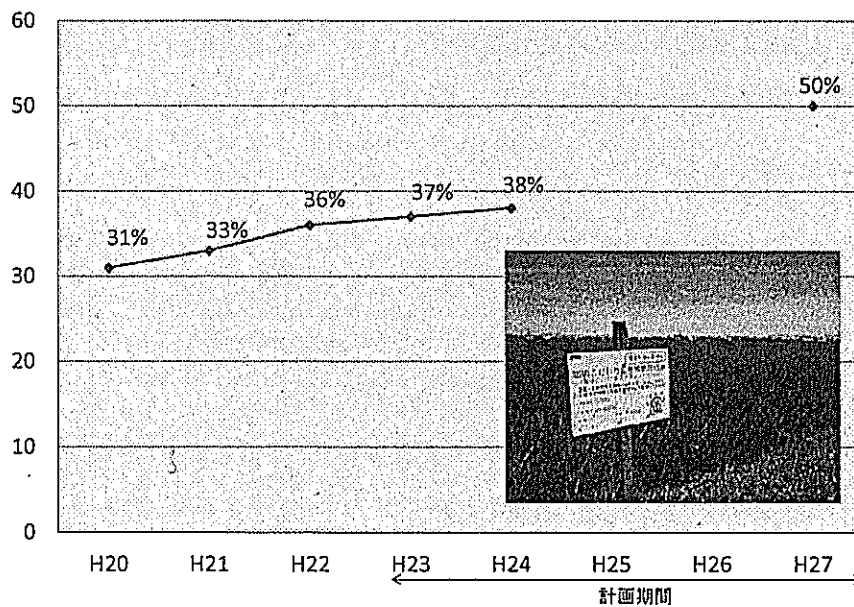
・基本方針3

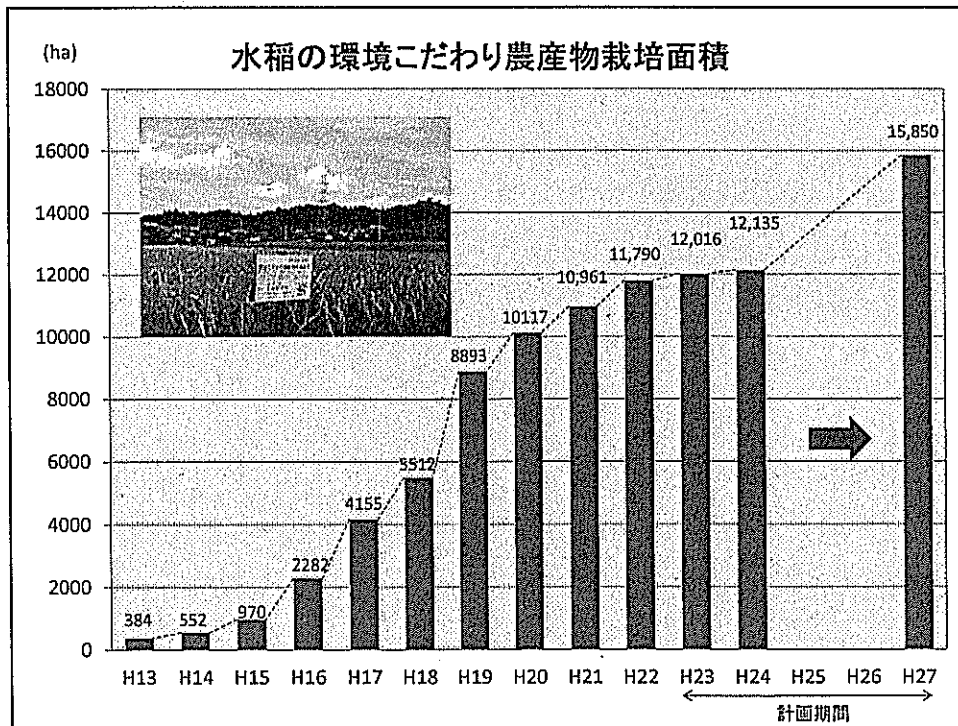
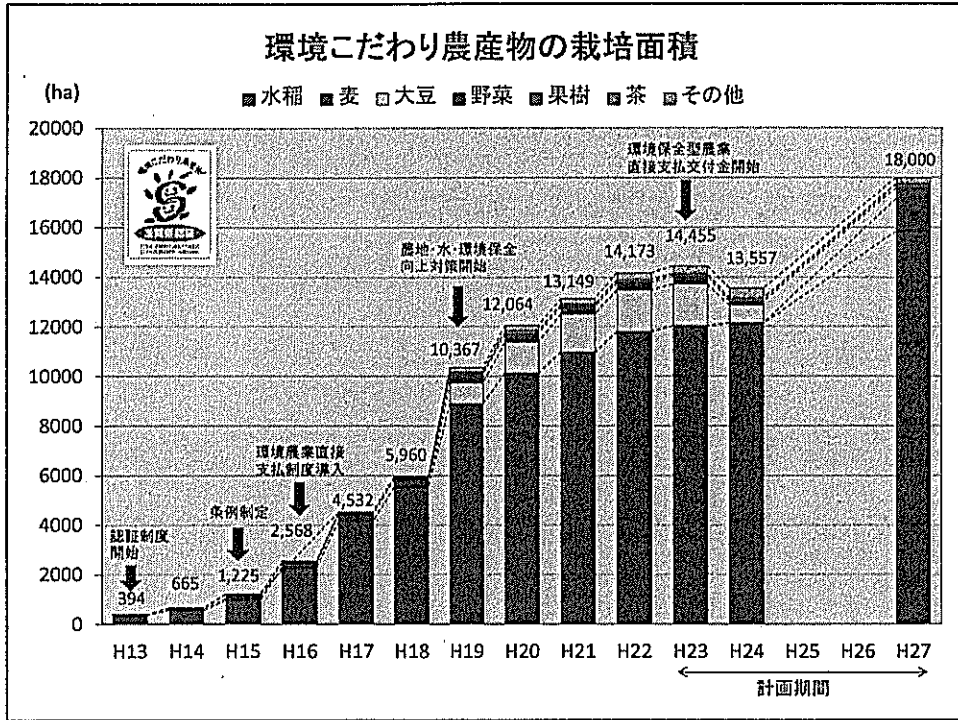
環境こだわり農産物の積極利用に向け、県民が一体となった取組を推進します。

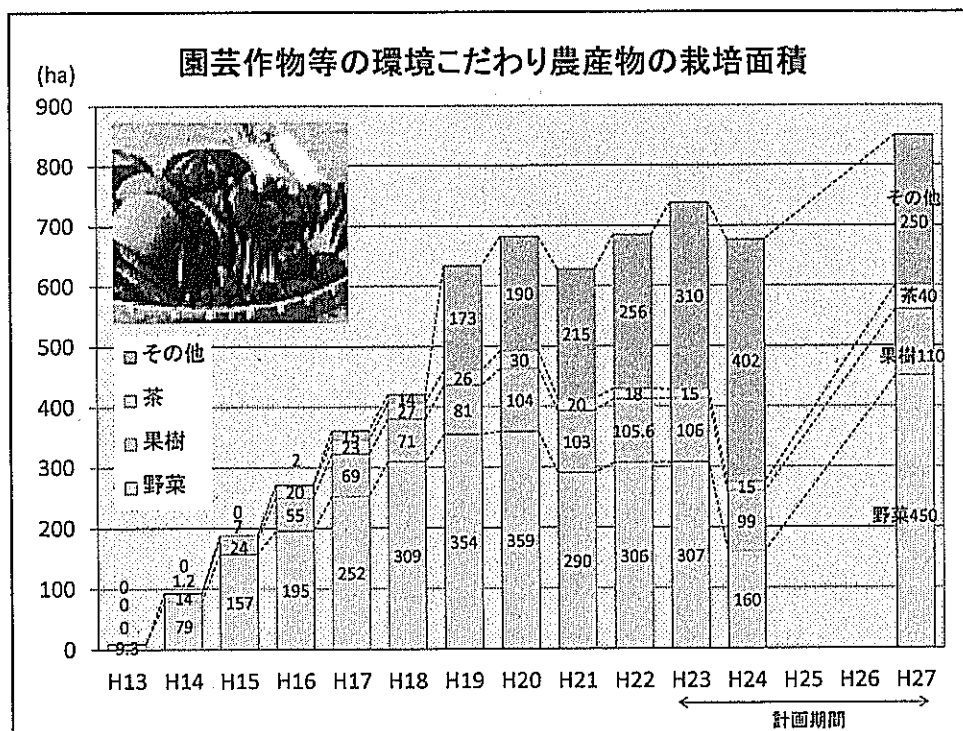
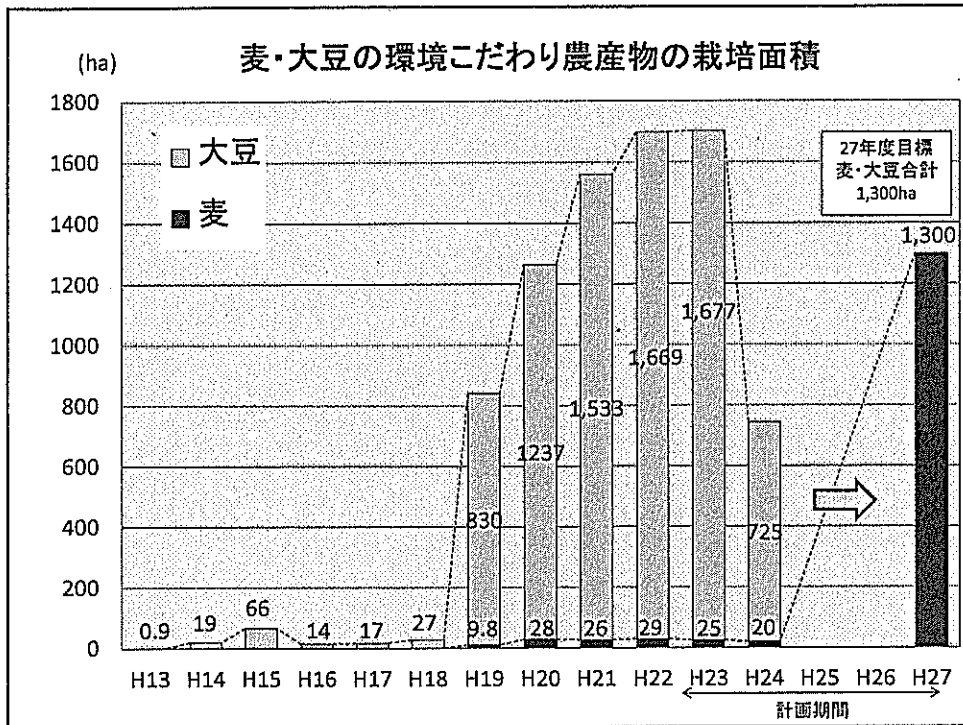
・成果目標

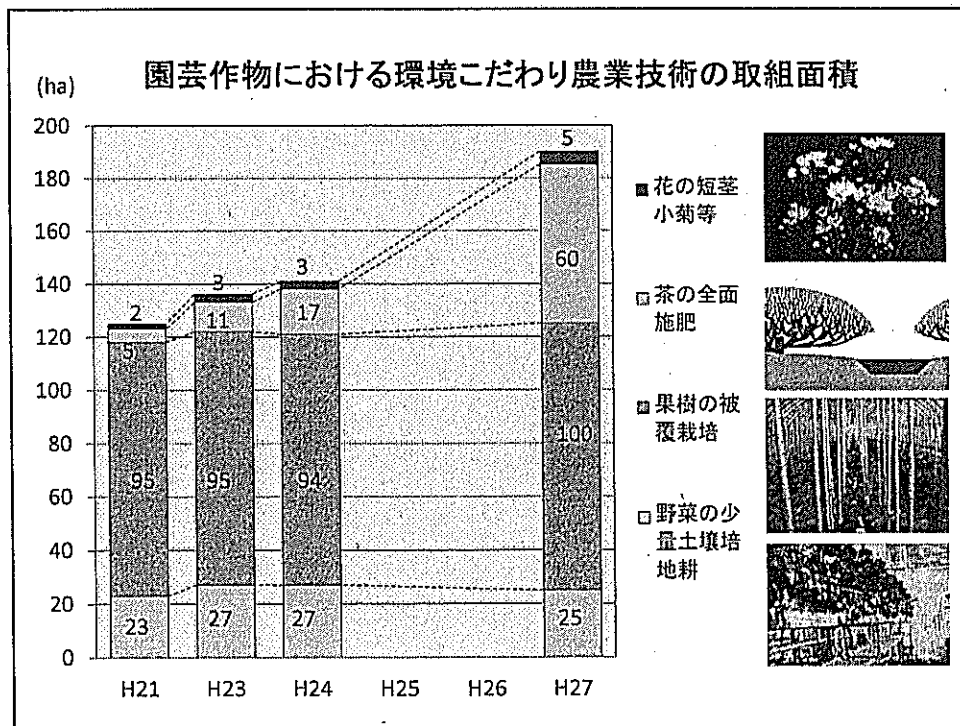
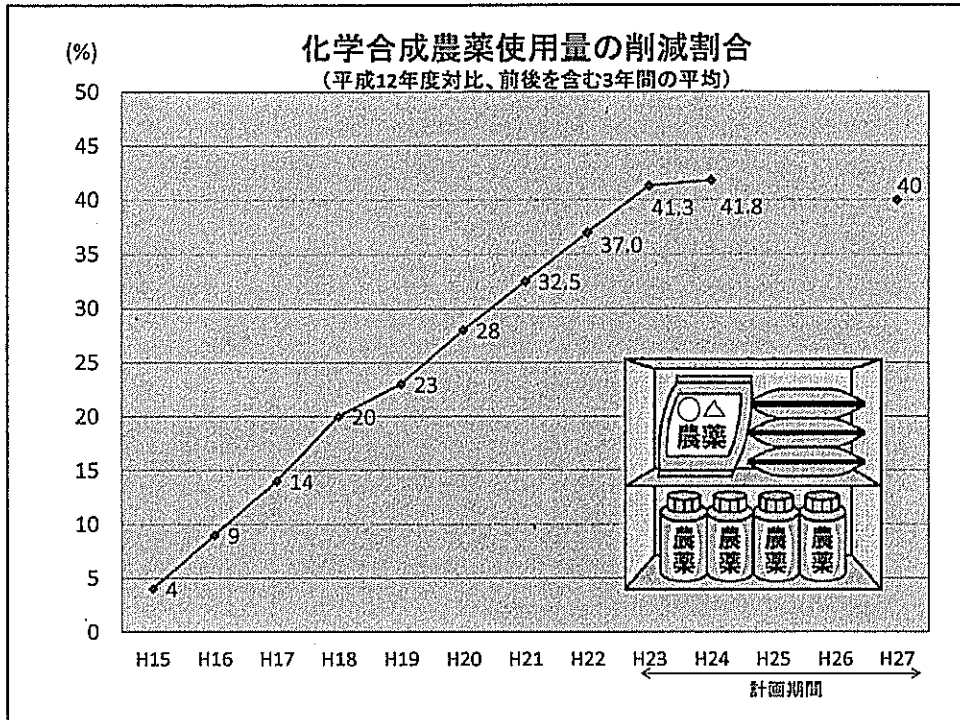
項目	現状 (21年度)	目標 (27年度)
「おいしが うれしが」キャンペーンの登録店舗数	596店	800店
環境こだわり農産物を継続して利用する消費者の割合	28%	36%

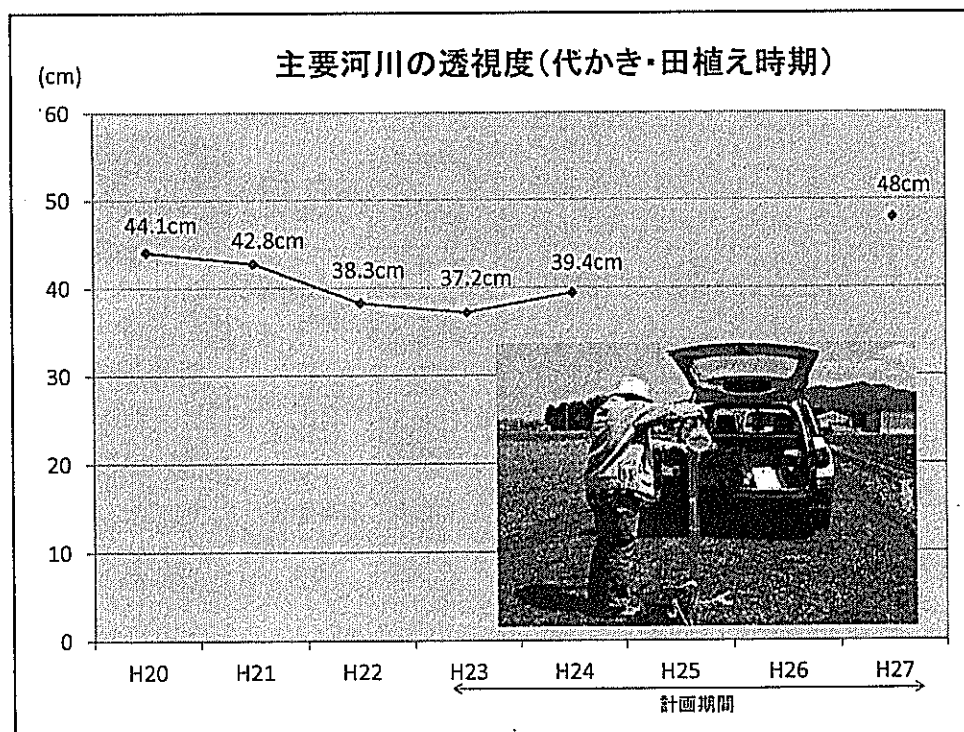
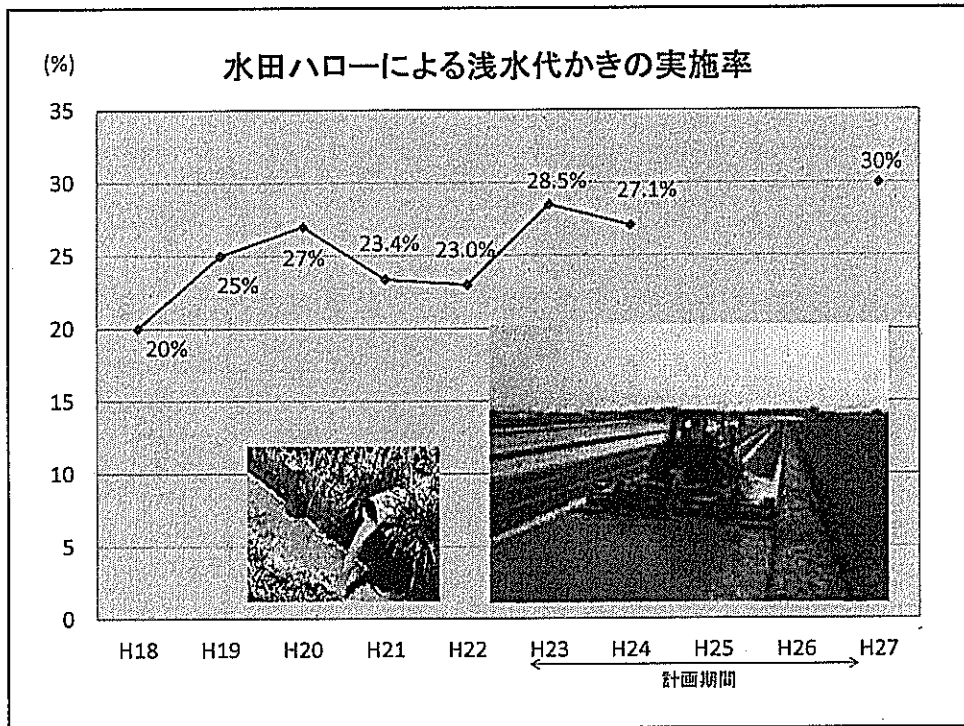
(%) 水稲における環境こだわり農産物栽培面積の割合

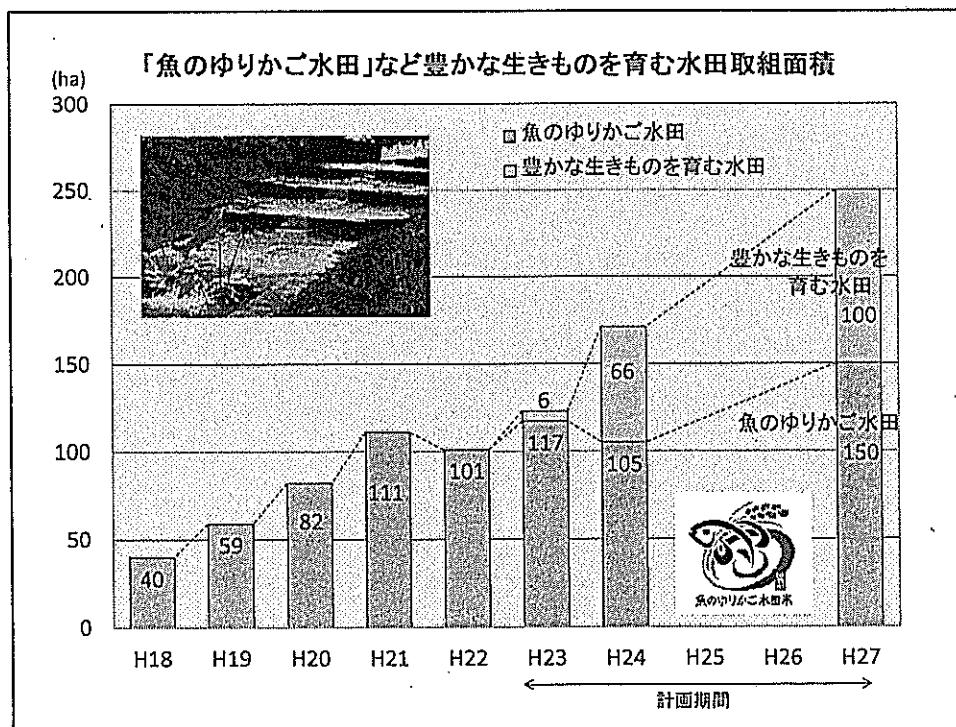
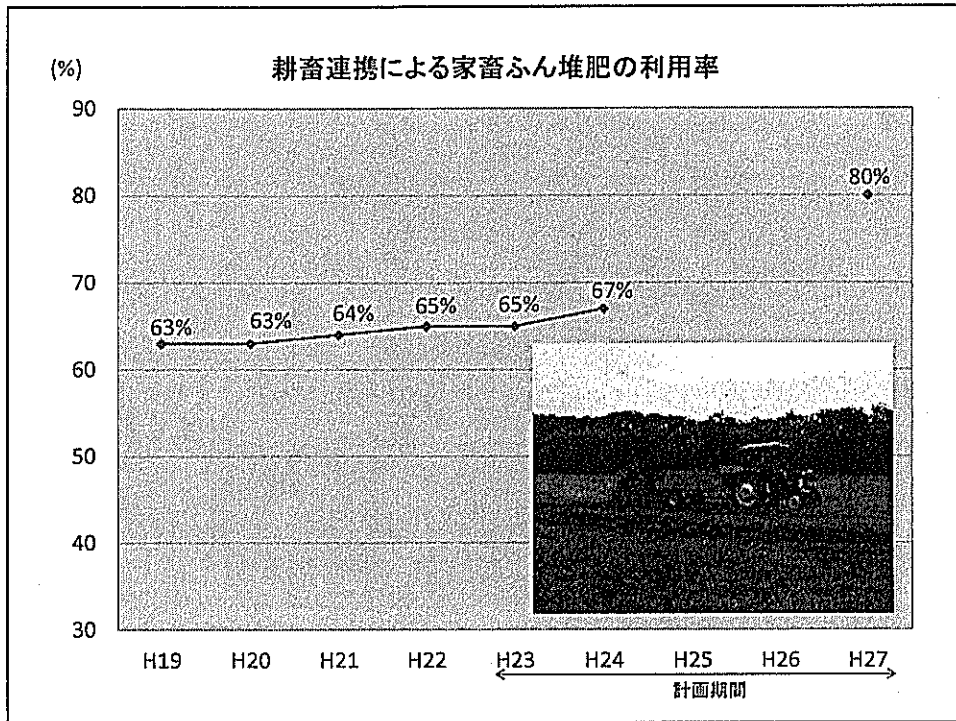




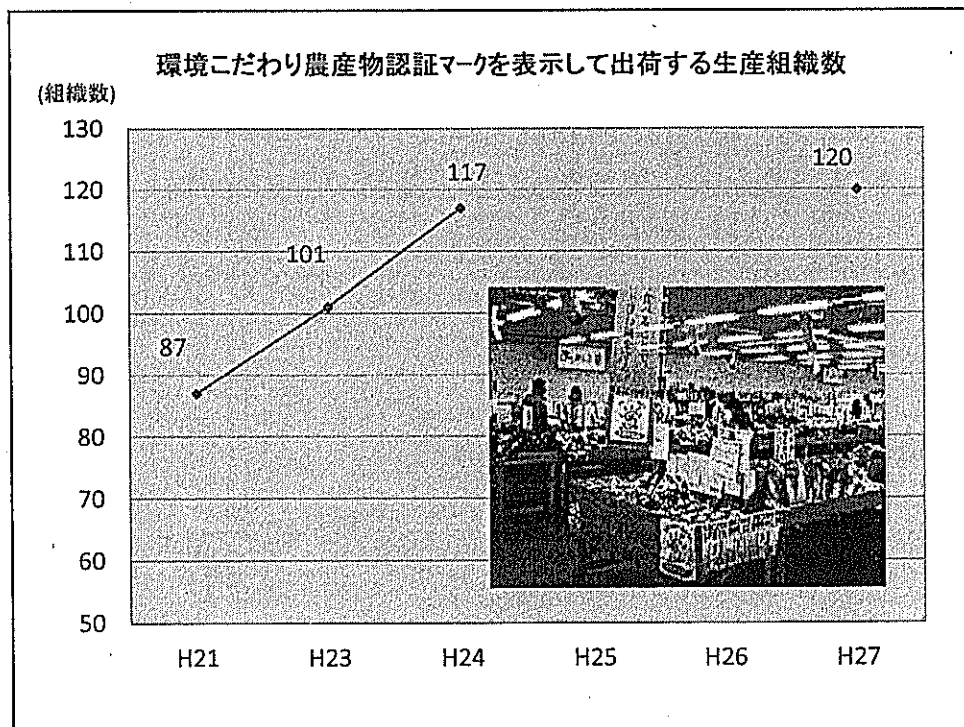
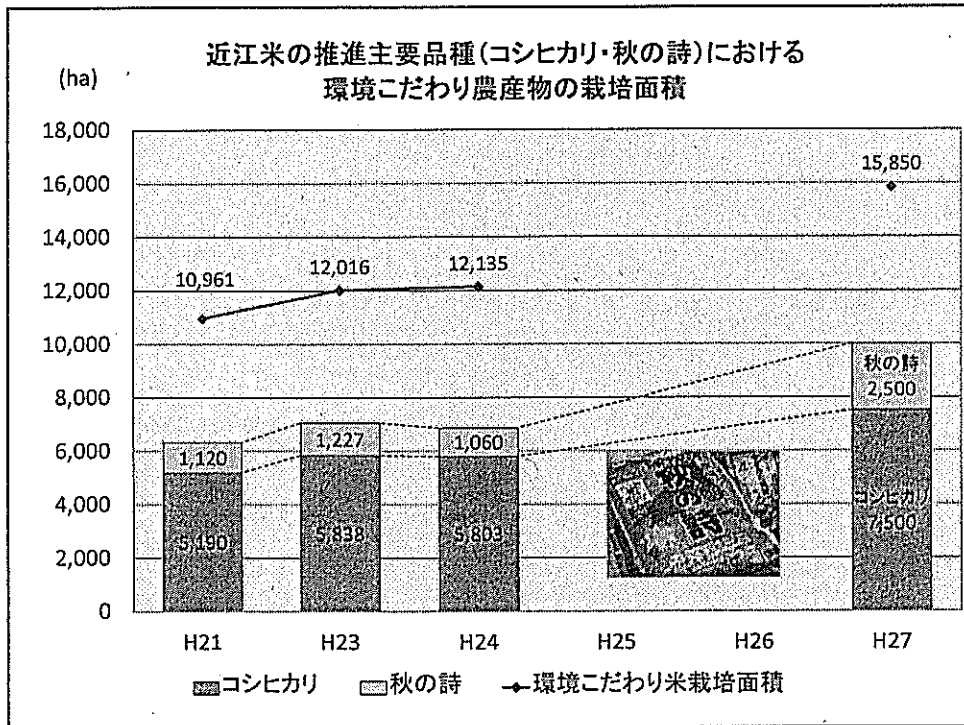


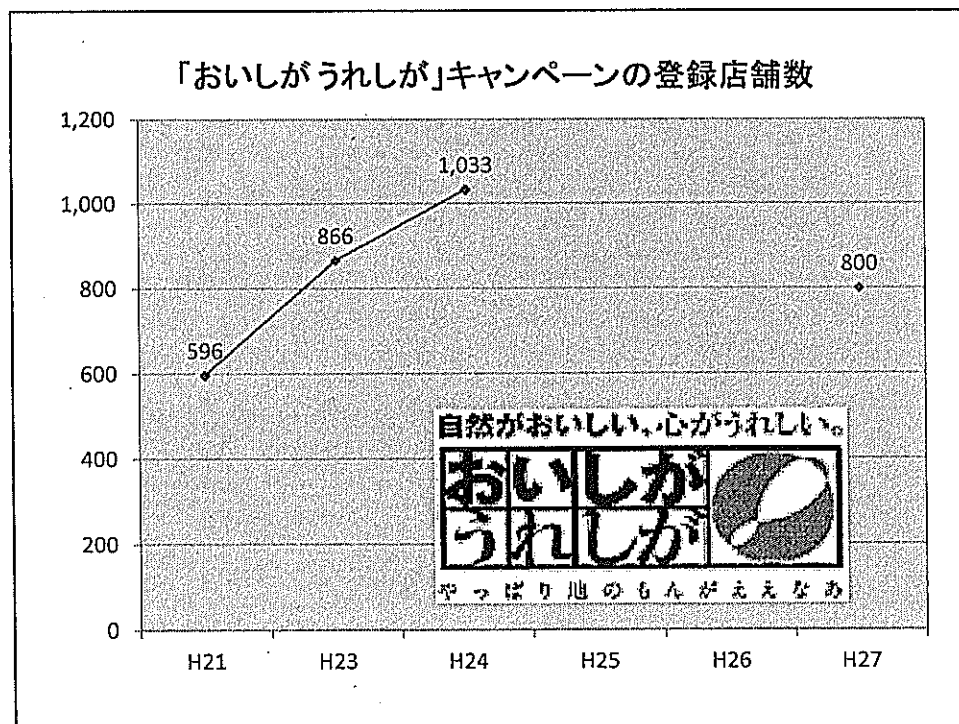
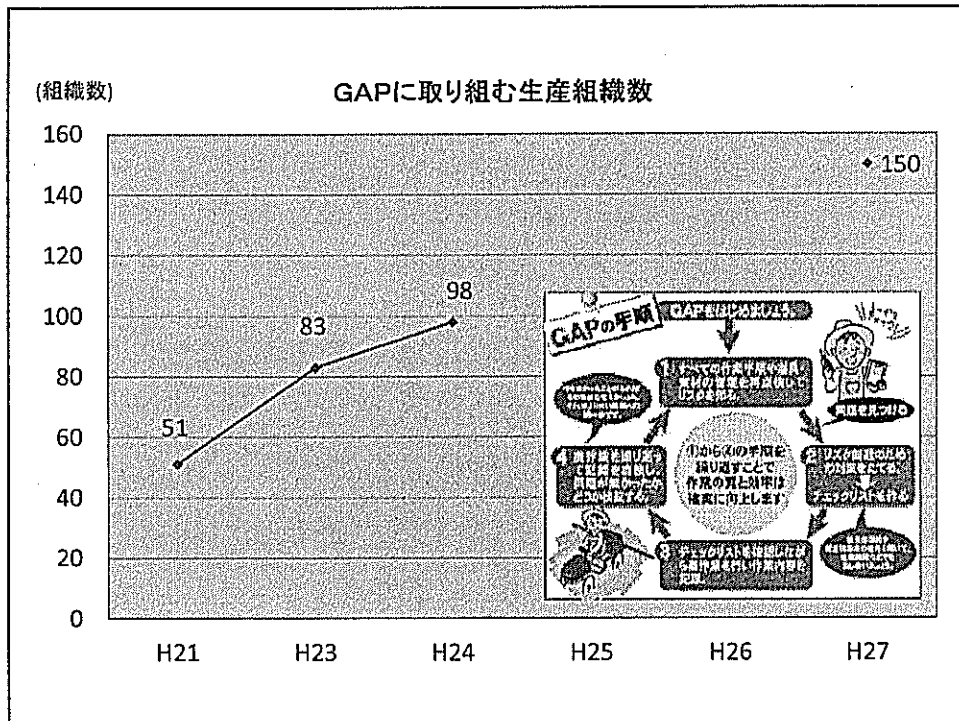




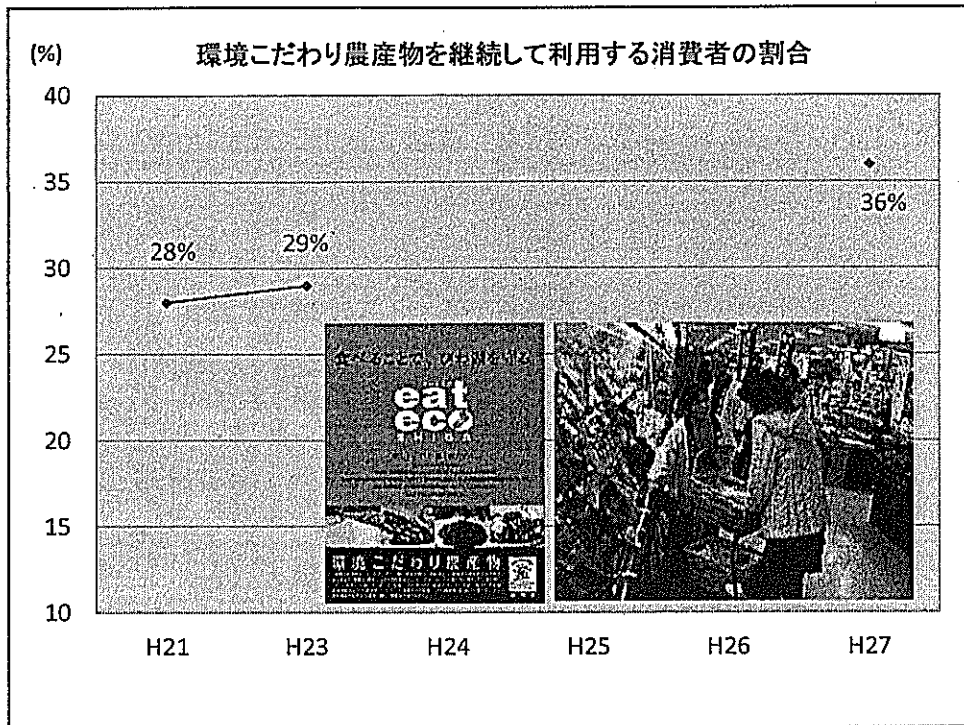












■意見交換のテーマ:環境こだわり農業の今後の推進に向けて

分野	ご意見・ご提言の内容	事務局の考え方
1. 園芸品目における重点品目の育成	<p>水稻は全国的にも流通し、定着してきている。しかし、それ以外の品目で目玉になる品目、例えば野菜や果実で、県を挙げて育てる野菜を決めて推進をはかれば、人気が出ると思われる。(安藤委員)</p> <p>最近の消費者は健康志向が強いので、無農薬などはよく売れる。しかし、量産できないとクレームが多いので、いつもあるというような野菜等があれば良い。(若林委員)</p>	<p>現在野菜では48品目が栽培されており、その中には一定量を確保でき、量販店で継続的に扱われる品目も出てきています。さらに拡大の余地はあり、引き続き生産拡大を支援します。その中で、県をあげての推進品目も検討していきたいと考えています。</p>
2. 表示方法の検討	<p>環境こだわり農産物でも「見える化」ができないか。消費者の理解をさらに促進するため、「琵琶湖を守る」ということを、例えば負荷削減量などにより、こだわりマークと一緒に、具体的に表示してはどうか。(井手委員)</p> <p>自分の経済的負担が大きくないことは前提ではあるが、社会に貢献できるという商品は伸びている。こだわり農産物を買うことで、どのような貢献ができるのか、もっとストレートにわかるような工夫が必要(こだわりマークの横にもうひとつ表示を加える等)。(岡野委員)</p> <p>消費者にとっては、価格差が品質に反映されたり、自分がいいことをしているという感覚を持てることが大事。こだわり農産物が慣行栽培のものより高いとして、その価格差によってどれだけ琵琶湖をきれいにするか、また、農家の努力の形がわかる等、消費者へのアピールの仕方を考えるべき。(伊部委員)</p> <p>消費者としては、買う度に「自分は琵琶湖を守っている、貢献している」ということがきちっと見えることが必要。その結果農産物がよく売れば、生産者も元気になる。(成田委員)</p>	<p>表示方法については、いただいたご意見も踏まえ、流通や関係機関等の意見も聞きながら、検討してまいります。</p>
3. マークの表示について	<p>一消費者としては、同じ量で同じ価格の商品が並んでいるとしたら、間違いなくマークのついているほうを選ぶ。是非マークを表示して、世の中に広まるようにしてほしい。(伊部委員)</p>	<p>現在県下117の生産者組織や多くの個人生産者等において、マークを表示していただいております。23年度は、農産物や加工品あわせて合計220万枚のマークが表示されました。今後も表示が進むよう、働きかけていきます。</p>
4. 消費者教育	<p>価格差があってもそれを超えていただけるように、消費者の理解を得る努力、消費者教育が必要(井手委員)。</p> <p>消費者の意識が変わらなければ、出口でたくさん出ない(売れない)ので、消費者教育をさらに徹底する必要がある。(成田委員)</p>	<p>「食べることで、びわ湖を守る。」を合言葉に、生産者団体、流通関係者、食や農に関心の高い任意の団体等、様々な方と連携して、消費者への環境こだわり農業への理解を図り、利用促進をすすめていきます。</p>
5. PR事業について	<p>京阪神事業の反響はどうだったか？(成田委員)</p>	<p>一定の評価を頂いており、次年度も引き続き、流通事業者や販売店と連携して、商品と連動したPRキャンペーンを実施していきます。</p>
6. 若い世代へのPR	<p>学生など若い消費者は、スーパーはあまり利用しないので、駅の周辺など、若い世代が自然に通る場所で、環境こだわり農産物売るとPR効果が高いのではないかと。(小西委員)</p> <p>直売所から大学でのPPイベントに出店したが、学生の反応は良かった。今後も大学や地域に出向いて若い世代にPRしていきたい。(赤松委員)</p>	<p>平成23年度より、県内の学生団体や任意の団体などが、20代等の若い世代を対象に環境こだわり農業をPRする取組を支援しています(環境こだわり農業連携PR事業)。</p> <p>昨年度は大学生の5団体を含む8団体の活動を支援しました。今年度も8団体を支援する予定であり、引き続き、県内各地で若い世代へのPRを展開していきます。</p>

分野	ご意見・ご提言の内容	事務局の考え方
7. 環境こだわり農産物のコーナー化について	<p>勤務先の直売所では、こだわり農産物のコーナー化をして、売れ行きなどの調査を行っている。生産者も消費者も少しずつ意識(興味)が芽生えている感触がある。コーナー化をすることにより、生産者の力になればと考えている。(赤松委員)</p> <p>地場産が欲しい人は多いと思うので、買いやすいように地場産コーナーをさらに進めて欲しい。そうすれば、環境こだわり農産物が自然とコーナーへ集まってきて、買いやすくなり、他府県産との価格の比較もしくくなる(清水委員)。</p>	<p>農産物直売所は、環境こだわり農産物の重要な販売拠点の一つであると考えており、今後も、直売所での環境こだわり農産物のコーナーが広がるよう支援していきます。</p>
8. 農産物販売業者としての取組	<p>イオンとしては、水稻のこだわりの販売を続けていきたいし、野菜等についてもびわこ青果と協力してしっかりやっていく。また、滋賀県フェアを25年度も行う予定である。滋賀県の伝統食材や食の匠のようなものを掘り起こすフードアルザチンという取組に力を入れているので、生産者等を紹介してもらえれば有難い(安藤委員)。</p> <p>県内スーパーとして、県とベクトルを合わせて、キャンペーンなど前向きに取り組んでいきたい。(若林委員)</p>	<p>環境こだわり米を継続して定番商品として広範囲な店舗でお取り扱い頂き大変有難いです。生産者の安定した生産にも繋がっています。フェア等においては、滋賀県産農産物とあわせ、琵琶湖と共生する農業である「環境こだわり農産物」のPRもよろしくお願ひします。</p> <p>今後も県内大手スーパーとして、滋賀県の「環境こだわり農産物」の取扱い拡大と消費者への理解促進にご協力をよろしくお願ひします。</p>
9. 栽培基準について	<p>50%減というのは、多くの農家が取り組みやすいハードルなので、取り組み農家数が増え、結果的にトータルとしての農薬削減量が大きく減少して琵琶湖全体への負荷が削減したという成果が出ている。しかし、50%がスタンダードになれば、次のステップとして、例えば60%等に進めるべきではないか。(井手委員)</p> <p>スーパーではこだわりクラス、つまり50%カットで見てもきれいという商品がよく売れている。一方生産者にとっては、50%減は、これ以上減らすと収量ががたっと減ってしまうので、経営的に非常に取り組みやすいラインである(清水委員)。</p> <p>消費者はこだわりといえば半分というイメージが固定しているので、無農薬であれば無農薬というふうに、産地がこだわり以上の詳しい情報を消費者に伝えることが大事。(種村委員)</p>	<p>現基本計画の目標年度である27年度に、水稻の栽培面積の50%、スタンダードとなることを目指して推進を図っているところです。それが達成された後、次期基本計画の検討にあたっては、次のステップも考えていく必要があると考えています。</p> <p>認証制度における表示は、「5割以下」となっており、更に詳細な表示を希望する場合は、国の特別栽培農産物表示ガイドラインに従って、農薬不使用、化学肥料不使用などの表示も可能です。現在も、産地によっては、環境こだわり農産物の表示とあわせて、ガイドラインに基づく表示を行っている事例も多く見られます。このような表示を希望される生産者に対しては、引き続き情報提供を行っていきたくと考えています。</p>
10. 生産者への支援制度について	<p>こだわり農産物の栽培には手間暇がかかる。消費者にも優しいという視点でPRして、付加価値を付けて販売していくことが大事。また、生産者に対しては支援を継続していただくとともに、制度に取り組みやすくなるような技術の提案等もお願ひしたい。環境こだわり農産物を行うことで、琵琶湖や環境が良くなるので、生産者としても頑張っって作って行きたい。(脇坂委員)</p>	<p>25年度は、知事特認で新たな4技術の承認を得るとともに、県単独措置を継続でき、生産者に取り組んでいただきやすいメニューを増やすことができました。併せて、技術マニュアルを作成し、生産者に対する支援を行っています。また、26年度の国の制度変更に合わせて、農薬・化学肥料の5割以上削減する栽培とあわせ、水源の保全などの高度な取組に対する加算措置という形で、滋賀県の皆さんの取り組みが支援対象となるよう、国への働きかけを行っています。</p> <p>一方で、消費者に対しては、「食べることで、びわ湖を守る。」を合言葉に、引き続きPRを行い、消費者がこだわり農産物を買って支える仕組みを広めていきたくと考えております。</p>

## 環境こだわり農業のPRについて (H25)

食のブランド推進課

## 1 「食べることで、びわ湖を守る。」推進事業

## 1) 京阪神における「環境こだわり農産物」利用促進事業 (H24~H25)

京阪神の琵琶湖・淀川流域を中心とした消費者に、「食べることで、びわ湖を守る。」の合言葉とともに、環境こだわり米を利用することが琵琶湖の水をきれいに保つことにつながることを理解されるように、商品を販売される事業者と連携したPRを実施する。

【時期】 平成25年10月中旬 ~ 26年1月末 (予定)

【協力店舗等 (予定)】 環境こだわり米の販売店舗 (京阪神の3府県を中心)、卸業者 (イオン、イズミヤ、平和堂 (交渉中)、京都生協、おおさかパルコープ生協、コープきんぎ、ハリタ、幸福米穀、その他)

【内容】

- ・環境こだわり米の米袋に懸賞付きPRキャンペーンシールを貼付
- ・京阪神3府県の販売店舗の店頭でミノボリ等の設置によるPR
- ・キャンペーンサイト (HP) やイベント等により環境こだわり農産物を学ぶ場を提供

## 2) 小学生の環境こだわり農業の理解促進

昨年度、県内全小学校や関係機関へ配布した「環境こだわり農業を学ぶ」DVD教材について、小学校の先生方や関係者と連携し、活用を促進する。



## 2 みんなが支える環境こだわり農業PR事業

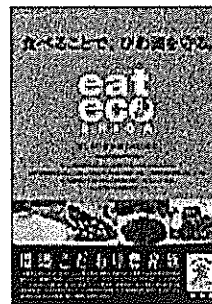
## 1) 啓発資料の作成・配布

ポスター、リーフレット、のぼり、公用車用マグネット、法被等の活用

## 2) 「こだわり滋賀ネットワーク」との協働による消費者への理解促進

## 3) 環境こだわり農業連携PR事業 (H23~H25 委託事業)

任意団体・NPO法人等が自ら環境こだわり農業を学ぶとともに若い世代に対し、環境こだわり農業の理解促進を図る。



## 3 環境こだわり農産物の流通促進・消費拡大に向けた取組

## 1) メディアやホームページ (滋賀のおいしいコレクション) 等を活用した情報発信

びわ湖放送毎週土曜日 18:05~18:15、エフエム滋賀毎週水曜日 12:00~12:30 の番組等

## 2) 催事を活用した啓発、PR

## 4 その他

## 1) 新品種「みずかがみ」の作付とPRの推進

本県が育成した新品種「みずかがみ」は全量を「環境こだわり米」として栽培。

今秋に販売を開始し、関係機関が一体となってPRを推進する。

## 2) 学校給食における環境こだわり米の利用の推進

学校給食の米は全て滋賀県産米。うち、「環境こだわり米」を利用するのは12市町 (H25.7現在) 今年度から、公益財団法人滋賀県学校給食会が「環境こだわり米」の取扱を開始され、連携して推進する。

参考) 守山市 (H25.4月~) と近江八幡市 (H25.9月~) が給食に環境こだわり米を採用

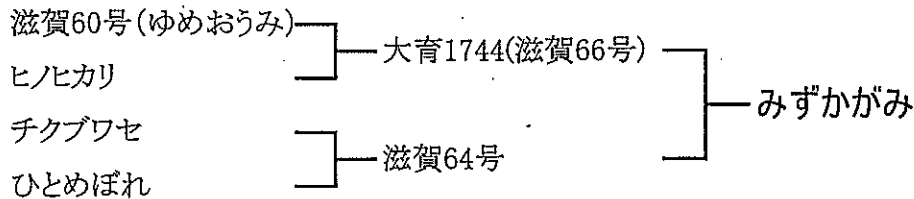


# 「みずかがみ」の推進方針等について

## 1. 育成経過

- 平成 15 年 滋賀県農業技術振興センターにて、「大育 1744」(後の「滋賀 66 号」)を母、「滋賀 64 号」を父として人工交配。
- 平成 21 年～ 奨励品種決定予備調査、高温登熟性検定等の各種特性検定試験に供試。
- 平成 23 年～ 奨励品種決定本調査ならびに現地調査等に供試。
- 平成 24 年 10 月 「みずかがみ」と命名し品種登録を出願。
- 平成 25 年 4 月 滋賀県指定品種に指定。

### 系譜図



## 2. 品種の特性

- 外観品質：高温に強く、乳白などの白未熟粒が少なく安定。
- 収穫時期：「コシヒカリ」より数日～1週間早い「早生品種」。
- 収穫量：「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」と同程度。
- 食味：「コシヒカリ」と同等以上の極良食味。冷めても粘りが持続しておいしい。

### ◆官能食味試験結果

年度	品種名	総合評価	外観	味	粘り
2009	みずかがみ	+0.29	+0.38	+0.33	+0.24
	コシヒカリ	+0.33	+0.31	+0.31	+0.33
2010	みずかがみ	+0.42	+0.89	+0.26	+0.21
	コシヒカリ	+0.32	+0.53	+0.35	+0.32
2011	みずかがみ	+0.41	+0.18	+0.41	+0.47
	コシヒカリ	+0.32	-0.01	+0.43	+0.45

### ◆炊飯特性(H23 産)

(株)アイホー炊飯総合研究所

炊飯後時間	食味値	粘り
0時間後	88	63.97
24時間後	87	72.23

数値の見方:

・「食味値」: 値が大きいほど良い

・「粘り」: 最良(45.0～76.0) 良(40.0～44.9)

注1) 供試材料はいずれも農技センター(近江八幡市安土町大中)産。

注2) 「日本晴」を基準とした-3～+3までの7段階評価による結果

## 3. 生産方針

○県、JA滋賀中央会、全農しが等で構成する「近江米振興協会」において生産方針を決定し、「近江米新品種『みずかがみ』推進プロジェクト」として全県で統一的に取り組む。

- 栽培地域：県下全域。
- 作付目標：市場での存在感を確保するため、加速的に生産を拡大する。  
H25: 150ha(750t) → H26: 1,000ha(5,000t) → H27: 2,000ha(10,000t)
- 栽培方法：環境こだわり栽培とする。
- 生産者：栽培方法、出荷、種子の取扱等にかかる誓約の上、近江米振興協会で希望者の申込みを受け付け、生産者を特定する。
- 指導体制：各JA等で生産者の組織化を図り、技術指導、集荷等の体制を整備する。
- 集荷促進：環境こだわり農産物認証マークを印刷した「みずかがみ」専用玄米袋により集荷促進を図る。

## 4. 流通対策

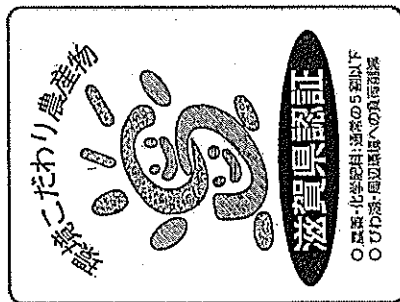
- H25 産は県内、H26 産からは県外でも販売。
- H25 産は9月上旬の販売開始イベントおよび県内量販店での試食イベント(計7回程度)を計画。
- 環境こだわり農産物認証マークを印刷した統一の精米袋で販売。



改正前

（要綱）様式第4号（第10関係）

環境こだわり農産物認証マークの標準様式



(注) 《特色指定》 《7pt以上4C指定》

■	黒色	スミ	スミ
■	赤色	DIC564	M100%×Y85%
■	緑色	DIC643	C100%×Y85%
■	水色	DIC99	C90%

- 1 「環境こだわり農産物」、「○農薬・化学肥料：通常の5割以下」および「○びわ湖・周辺環境への負荷削減」の文字は黒色とし、「滋賀県認証」の文字は白色とする。
- 2 図柄の配色は（注）のとおりとする。
- 3 マーク全体の大きさは、以下を基本とする。  
 大： 790mm×330 67.5mm (角丸3mm)  
 中： 760mm×330 45 mm (角丸2mm)  
 小： 736mm×330 27 mm (角丸1mm)

改正後

（要綱）様式第4号（第10関係）

環境こだわり農産物認証マークの標準様式



(注) 《特色指定》 《7pt以上4C指定》

■	黒色	スミ	スミ
■	赤色	DIC564	M100%×Y85%
■	緑色	DIC643	C100%×Y85%
■	水色	DIC99	C90%

- 1 「環境こだわり農産物」、「○農薬・化学肥料：通常の5割以下」および「○びわ湖・周辺環境への負荷削減」の文字は黒色とし、「滋賀県認証」の文字は白色とする。
- 2 図柄の配色は（注）のとおりとする。
- 3 マーク全体の大きさは、以下を基本とする。  
 大： 790mm×330 67.5mm (角丸3mm)  
 中： 760mm×330 45 mm (角丸2mm)  
 小： 736mm×330 27 mm (角丸1mm)
- 4 当分の間、従前の様式を使用できる。



改正前

別記2



(注) 《特色指定》 《PMS4C指定》  
 黒色 スミ スミ  
 赤色 DIC564 M100%×Y85%  
 緑色 DIC643 C100%×Y85%

1 下記の標準様式を基本に、「〇〇は環境こだわり農産物100%」(〇〇には、使用した環境こだわり農産物の農作物名を記入する)をマークに隣接する見やすいところに併せて表示すること。

2 図柄の配色は(注)のとおりとする。

「環境こだわり農産物(滋賀県認証)使用」の文字は黒色とする。

○標準様式



〇〇は環境こだわり農産物100%

改正後

別記2



(注) 《特色指定》 《PMS4C指定》  
 黒色 スミ スミ  
 赤色 DIC564 M100%×Y85%  
 緑色 DIC643 C100%×Y85%

1 下記の標準様式を基本に、「〇〇は環境こだわり農産物<sup>®</sup>100%」(〇〇には、使用した環境こだわり農産物の農作物名を記入する)をマークに隣接する見やすいところに併せて表示すること。

2 図柄の配色は(注)のとおりとする。

「環境こだわり農産物<sup>®</sup>(滋賀県認証)使用」の文字は黒色とする。

3 当分の間、従前の様式を使用できる。

○標準様式



〇〇は環境こだわり農産物<sup>®</sup>100%